
小人物語

スケープゴート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小人物語

【Nコード】

N9613S

【作者名】

スケープゴート

【あらすじ】

小人はいるのか、いないのか！

ガタッ

ことごと……

ぱたんっ

ぱたぱたぱた……

……たぱたぱた

かちゃ

こそこそ……

かちゃ、

ばたんっ

……

ぺた、ぺた、ぺた、

……

………

「……いったか？」

「いったか？」

「いったといったか？」

「いったといったぞ」

「いったといった！」

「いったの！」

「いったぞ！」

本人にはどこに何があるのか、把握できるのだろうか、人が見たらただのゴミ屋敷じゃないかと呆れるほどに散らかった部屋のどこからか、鈴の音くらいにの囁きが聞こえ始めた。

人影はいない。この部屋に唯一暮らす主は先ほど探し物をし、結局見つからないまま閉めたドアの予想以上に大きな音にビビりなが

らも部屋を出て行っただけだった。

時刻は黄昏。しかし初夏に差しかった快晴の日、空はまだ青く日はまだ白かった。

開いたブラインドから射線が入ってくるやや西日に、部屋はブラインドの影のストライプを描かれていた。

「……ほんとにいったか？」

「ほんとに？」

「いったんじゃないか」

「いつてないのか？」

「いつてないのか」

「いつてないのか！」

「ひとが！」

「ぬしがいるか！」

「ぬしが、いるか？」

「しずかに？」

「しずかに！」

「……」

「……」

「……くしゅん」

「……」

えっと、無人の部屋の中、閉まりきっている窓から少し早い梅雨の湿った風も、少し遅い春の渴いた風も吹きこんでくることはなく、滞って淀んだ空気がしつとりと沈んでいるばかりだ。

飲み干したまま、流しに持っていかれることなく放られているマグカップ、から覗く緑の布切れ……。

いや、買ってから水を与えられることも無く干からび果てたサボテンの鉢植え、から覗く小さな指……。

でもなく、脱いだまま皺くちやにソファーに掛けられているよれのTシャツ、は中に何かがあるかのように盛り上がっている……。

……。

「ぶえつくしゅんっ!!」

「うわー!」

「やめれ! はなみずが!」

「くつついたか!」

「きたない!」

「ぐっしゅん!」

「きちやない!」

「やめれって!」

よれよれのシャツが掛けられたソファの下、そこから沸くように這い出てきたなにかがあった。

それぞれが布切れを身に纏っていて、或いはとんがり帽を頭に乗せていたり、或いは靴をはいていたりする小さな人がわらわらと散ってきた。その様子はゴキ。リが沸くかの……いや言いません。

神輿を上へ下へと持ち上げ持ち下げるような騒ぎに、マグカップの裏からサボテンの鉢植えの影からTシャツの中から同じような小人が顔を覗かせる。

「ぶえつくふぐつつ!!」

「やめれって!」

「よくやった!」

「くちふさいだ!」

「いきは?」

「できるだろ?」

「いきは?」

「できないか?」

「わ」

「はずしたげて」

「くるしそう」

「ふはっお、おれを」

「なに?」

「ころすきか！」

「なにをいう！」

「なにをいう！」

きーきー互いを打ち始めた二人の小人に、周囲を囲んでいた小人が止めるべきか囁き合っていた。

または頭や服についてきた埃やごみを払っていたり、丸めてあるタオルの匂いを嗅いだりティッシュを持ち上げたりしていた。

どこから沸いたのか、どこに隠れていたのやら、あつという間に部屋を埋め尽くした小人たち。彼らは秩序やルールや礼儀を知らぬかのように好き勝手に動き回っていた。

そんな混沌を、他の小人たちから少しだけ高いところから見渡していた、どこか貫禄を感じられる一人の小人が腕を組んで叫んだ。
「きけーい！」

のろまな動きで彼を見上げる小人たち。それらを眺めて、彼は我慢ならないというように唇を突きだした。

「なんだ？」「どうした？」「なんなんだ？」「だれだあいつ」「だれかあいつ」「だれかあいつ？」

「おまえがあいつ？」「あいつはだれだ」「しってるか」「しるわけない」「だよなあ」「だよだよ」

「あ」「あいつじゃねえか」「どいつじゃねえか？」「あいつ」「どいつ」「どいつ？」「だから」

「きけいといっているだろおが！」

静かだったのも一瞬のこと。すぐにざわめき始めた小人たちに腕を組んだままもう一度一喝して、腕を組んだ少し偉そうな小人は下にいる小人たちに言った。

「おまえらはなんのためにうまれてここにいるのかわすれたのか！」
「！」

「なんのため？」「なんのためだっけ？」「えっと、ほら」「なん

のため？」「ほらえつと」「だからその」「なんだつけ？」「ごは
んたべるため」「ねる？」「ちがうんじゃない？」「だからえつと」

「なんのためだつけ？」「せーの、」
「「「「「「なんのためだつけー！ー！！！！」「「「「「」
「おまえらはー！！」

こんなときにだけ一致団結した小人たちに呆れてか、勤めて冷静
であろうとした偉そうな彼は怒った。

そして、すでに憶えているのは彼だけであろう、彼らがここにい
る意味を叫んだ。

「この！ どうしようもなく！ きつちやない！ きつつちやな
いへやを！ なんとかする！ た！め、だ！ ろうがああああああ
あ！ー！」

「「「「「「……」「「「「「」

体の中の空気を全て出しくした、とばかりに肩で大きく息をする
小人の彼。彼の声にビビったのか、なんなのか、小人の群れはまた
も一瞬だけ沈黙し、今度はさらに大きな声でざわめきだす。

「だつたつけか？」「おぼえてねえべ」「そんなこと」「まったく
だ」「まったくだ」「きつちやないか？」「このへやが？」「
きつちやないだろう」「しゃつはくさかったぞ」「ああくさかった」
「かびがはえるな」「でもさ」「ここいごちよくないか」「ま
つたくだ」「ちょーきもちー」「さいこうだね」「なんでもある
しな」「おもしろいしな」「たのしいしな」「しゃつはくさいが」
「まったくだ」「だがねえ」「どうした」「どうしよ」「どうしよ」
「なかまよ」「どうしたのだ」「だがだがだねえ」「だからどうし
た」「ぼくらは」「この」「いごちのいいへやを」「なんとかす
るために」「ここに」「いるんだろう？」「まったくだ」「おもい
だせませんが」「そうらしい」「ならばだ」「ならば？」

「なんとかするってえのが、すじなんじゃねえのかい？」

「……………」

「なにいまのー！！」「かつこいいー！！」「すけさん！？」「かくさん！？」「こうももんさん！？」

「かつこいいー！！」「てれびであつてたの」「まじでか！」「なんとかするってえのが」「すじなんじゃねえのかい？」「……………」

「きゃー！！！！！！」

なんだか盛り上がっている小人らを、少しだけ他より高いところから見下ろしながら、偉そうに腕を組んでいた小人はがつくりとなだれた。せつかく危機感を煽ろうとして勇気とかなんとかを振り絞ったのに、と思いながらもとりあえず、

「つかれた……」とつぶやいた。

「おつしやるぞー！！」「やるきでできた！」「さすがおれら！」「さすがだおれら！」「すけさん！？」「かくさん！？」「……こうもんさんー！？」「きゃー！！」「きゃー！！」

「やるぞてめえら！ はたあげじゃー！！」

「……………」

「ただいまー」

「……………」

「はああ、疲れた。結局レポートは山田んちに置いたままだったし。は、やばかったあ」

部屋の主が帰ってきた。

小人たちはテンションのままに振り上げた右腕をそのままに、いきなりの危機に固まりそして、一斉に焦った。

「かくれる」「かくれるー！！」「どこに」「どっかに」「くるぞ」「やつがくるー！！」

「はああ、ほんと、無駄足だわー」

扉を開けて、片手に持っていたレポートの束をソファーへ放った。広がった紙を見向きもせず、飲んだままのマグカップを手に取り、冷蔵庫の中からコーラのペットボトルを取り出して注いだ。

ぐつと一気飲みし、盛大なげっぷをかました後、何となしに目に入ったサボテンに僅かに残ったコーラを与えた。

「いやー、忘れてたわ、サボテン君。枯れちゃったかあ。残念」

サボテンの鉢植えの隣にマグカップを置き、ベッドへの道すがら適当に散らかったマンガを手に取り、ベッドへダイブした。仰向けになり、マンガを開きながら一言。

「よし、今日もいい一日だった」

「……なんて」

（後書き）

続けて投稿。

勢い書きつて恐ろしいわ、と今更ながらに理解する自分。
面白く書けたからいいものの、肩がなかなか痛かったり。
ちよつとでも和んでくれたらいいです、こんな作品で……。
読んでくださったかた、本当にありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9613s/>

小人物語

2011年5月5日10時10分発行